

# 水曜通信34

東北学院宗教センター編

2024年  
1月

## 第69回 水曜公開礼拝

2024年 1月17日(水) 18:30-19:00



### <礼拝次第>

前 奏：G.ペーム作曲

コラールパルティータ 〈ただ愛する神の支配にまかす者は〉

讃美歌：39番「日くれて四方はくらく」

聖 書：ヘブライ人への手紙11章8-16節

讃美歌：270番「信仰こそ旅路を」

説 教：「信仰によって生きる」

頌 栄：539番「あめつちこそぞりて」

後 奏：J.S.バッハ作曲

〈ただ愛する神の支配にまかす者は〉 BWV642



説教  
東北学院榴ヶ岡高等学校  
宗教主任  
西間木 順



奏楽・第2部演奏  
文学部教授  
大学宗教主任  
椎名 雄一郎

後奏の後、椎名 雄一郎氏（本学文学部教授）によるオルガン演奏による賛美を行います。

次回第70回水曜公開礼拝は2024年2月21日です。

## 第68回 水曜公開礼拝報告（説教：藤野 雄大、奏楽：今井 奈緒子）

2023年12月20日（水） 18：30 - 19：00

讃美歌：讃美歌21 241番「来たりたまえわれらの主よ」  
聖書：ルカによる福音書 2章8-14節  
讃美歌：讃美歌21 265番「天なる神には」  
説教：「神には栄光、地には平和あれ」  
頌栄：讃美歌21 25番「父・子・聖霊に」



### 【説教要旨】

主イエスのご降誕を記念するクリスマスは、平和の意味を覚えるときでもあります。今年は、ウクライナでの戦争に続き、主のご降誕の地に近い、パレスチナ・ガザ地区でも戦火が生じています。現地から伝えられる悲惨極まりない戦争の現実を前にする時、私たちは無力感に襲われることもあります。しかし、このような時だからこそ、平和の灯火が絶えることがないように、ご一緒に祈りを合わせる時としたいと思います。（大学宗教主任 藤野 雄大）

前奏：L.C.ダカン作曲 「スイスのノエル」  
後奏：G. フリュージェル作曲 「高く戸を上げよ」

「ノエル」はクリスマスを祝う言葉で、キリスト降誕の喜びを表現するフランス語圏の民謡もこの名で呼ばれるようになり、ダカンをはじめオルガニスト達が盛んに編曲をしました。

今夕最初に歌う讃美歌、スイスのノエル「かわいい天使」(Il est l'Ange) は、小さな男の子が寒さの中に眠る幼子キリストを温かく布でくるむ物語を歌います。「高く戸を上げよ」は18世紀ドイツで編まれたアドヴェントの讃美歌です。詩篇24：7の聖句をキリストのエルサレム入城に喩え、この世に来られる主を迎える思いに胸膨らます旋律の編曲です。



（大学オルガニスト 今井 奈緒子）

礼拝とその後の19時00分から30分までの今井奈緒子氏によるオルガンによる賛美に35名の方が参加されました。

## 礼拝後、音楽による賛美（オルガン演奏：今井 奈緒子）

1. J.S.バッハ作曲 「イエスよ、わが喜び」によるファンタジア BWV713
2. J.S.バッハ作曲 《ライブツィヒ・コラール》より「いざ来ませ、異邦人の救い主」 BWV659
3. A. ギルマン作曲 2つのノエルによるオッフエルトワール（奉献唱）
4. J.S.バッハ作曲 マニフィカト（「わが魂、主をあがめ」）によるフーガ BWV733

バッハによるアドヴェントのコラール（宗教改革によって生まれたドイツ語の賛美歌）編曲の間に、フランス・ロマン派の作曲家ギルマンによる2つの「ノエル」による作品を挟んで演奏します。バッハのモテットにより有名な「イエスよ、わが喜び」の詞は17世紀ドイツのJ.フランク作、力強い旋律はJ.クリューガー作。苦難と慰めを象るコラールですが、待降節にも歌われます。「いざ来ませ、異邦人の救い主」の詞は4世紀の聖アンブロシウスによるものをルターがドイツ語に合わせてアレンジしたもの、旋律は12世紀にスイスの修道院で歌い始められたと伝えられます。マニフィカトは受胎告知を受けた「マリアの賛歌」です。ドイツ語訳されたコラール旋律が、ベダルで力強く奏されます。ギルマンはパリ市民の心を捉えた後、ヨーロッパやアメリカ大陸各地で聴衆を熱狂させたコンサートオルガニストでした。この作品にはAdeste fideles「神の御子は今宵しも」と「話してよ、マリア」の旋律が紡がれていきます。



（今井 奈緒子）

## 宣教師たちの生涯と思想 (10)

### エルマー・ハロルド・ゾーグ (Elmer Harold Zaugg) の思想

ゾーグ先生は、聖書学と教会史を専門としていましたが、音楽の賜物が豊かなことでも知られていました。優れたバンジョー奏者であり、東北学院や宮城学院の教職員・学生と共に、コンサートを開催することも度々ありました。東北学院の音楽教育の向上にも、ゾーグ先生は大きく貢献したと言われています。また1930年代に合衆国の篤志家から東北学院にモーラー社製のパイプオルガンが献品されて以降は、専門の管理者が不足していたこともあり、その維持管理も担当していたこともありました。当時の日本では、パイプオルガンはまだ珍しく、特に東京以北では唯一のものだったとされています。

ゾーグ先生の音楽に関する見解は、「音楽の力」(『東北学院時報』第201号：大正7年2月20日発行)に見ることができます。同記事で、ゾーグ先生は、音楽が、人類の歴史の中で一貫して重大な役割を持っており、音楽は、人を慰め、文化を増進し、人を「勇敢かつ高尚」な行動へと導くという「三つの利益」があることを指摘しています。その上で、日本でも近代的な西洋音楽が普及することで、「国民の進歩発達に資する所莫大なるものがある」と述べています。

(大学宗教研主任 藤野 雄大)



「バンジョーを持つゾーグ先生。1903年撮影と伝わる。Harold E. Zaugg, *Sensei the Ultra American: from Missionary Teacher to Wartime Translator*, Manhattan, Kansas: Sunflower University Press, 1995, p.33より転載。」

## — 建築が語る東北学院の歴史 (25) —

2023年4月、東北学院大学は五橋新キャンパスを開設し、従来の泉キャンパスと多賀城キャンパスを集約しました。これに伴い、工学部のキャンパスとして60年に渡って歴史を積み重ねてきた多賀城キャンパスは、隣接する幼稚園を残して、キャンパスとしての役割を終えました。今年は、多賀城キャンパスの歴史を数回に分けて振り返ることから始めたいと思います。

多賀城キャンパスが建てられた場所は、太平洋戦争のため昭和18年(1943)に設置された海軍工廠用地の跡地です。工場は航空機用の機銃や焼夷弾などを製造する目的で設置された軍需工場で、戦時下の学徒動員では、ここへ動員された東北学院生も少なくないと言われます。

工場は多賀城の南東部(八幡の沖区、笠神、大代の辺り)に建設されましたが、旧工学部校地とその周辺には、工場従業員の住宅施設が建設されていました。終戦後にアメリカ進駐軍が来ると、工廠跡は米軍キャンプとなり、工場従業員の住宅地は軍人・軍属や日本人従業員とその家族のための住宅地となりました。1952年の航空写真と現在の地図を比べると、敷地の形状が今でもよく保存されていることが分かります。

(工学部 崎山 俊雄)



取得前の旧多賀城校地周辺 (1952米軍撮影・国土地理院公開の航空写真をトリミング・回転の上、加筆)



旧多賀城キャンパスの現況 (Google Mapに加筆)



旧多賀城校地周辺に残る水栓遺構 (2023崎山撮影)

## 国際シンポジウム開催のお知らせ

来月、2月6日（火）～7日（水）の日程で、「ランカスター神学校との国際交流シンポジウム・講演会」を開催します。米国のランカスター神学校は、本学の二人の校祖、ホーイ先生とシュネーダー先生の出身校であり、本学と国際交流協定を2018年7月に締結しました。それ以来、同校との交流を積極的に重ねていますが、今年度は、タイヤー先生（Prof. Dr. Ann T. Thayer）をお招きし、6日の午後後にシンポジウム、翌7日の午前中に講演会を開催します。来仙を予定していたバレット先生（Prof. Dr. Lee C. Barrett）はご事情により欠席されますが、発表原稿をタイヤー先生が代読してくださいます。ご関心のある方はご出席ください。宗教センターまで出席希望をご一報下さいますと幸いです。会の詳細は本学HPをご覧ください。

（宗教センターチャブレン 野村 信）



## TGCFクリスマス活動のご報告

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された（ヨハネ3:16）」

2023年度のTGCFクリスマスは、国際交流課CONVO LOUNGEと共催で行われたChristmas Party、第1回五橋クリスマス「クリスマスコンサート」への出演、学生企画のTGCFクリスマスと、恵み豊かな時を持つことができました。

初めての共催企画となったChristmas Partyでは、クリスマスの物語を聞いたり、ゲームをしたり、クッキーにデコレーションをしたりと、アメリカらしいクリスマスの過ごし方を宣教師の方々よりご紹介頂きました。最後は、皆で「Joy to the World」を讃美し、クリスマスの喜びを共に分かちあう機会となりました。

五橋クリスマスではTGCFワースhipチームの皆さんが「よろこびの歌」と「Happy Merry Christmas」を讃美しました。会場からの手拍子と共に、神様の愛が溢れるひと時であったと思います。学生企画のクリスマスでは、音楽礼拝と学部間交流が行われ、TGCFらしい今年度最後のイベントとなりました。

今年度のTGCFの活動は、大学でのイベントが中心に行われました。一年間、主の守りと皆様の支えの中で、豊かな交わりと活動が行えたことを、心より感謝申し上げます。来年度以降、少しずつ各学校との交わりへと広がっていくことを願っています。引き続き、TGCFの活動をお祈りに覚えていただければ幸いです。

（宗教センター主事 佐藤 由子）



Christmas Party



五橋クリスマス



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー  
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」  
第34号

2024年1月9日発行

〒984-8588 仙台市若林区清水路3-1  
発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司  
東北学院宗教センター TEL：022-354-8310  
Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp